

## ご挨拶

皆様、只今から、令和元年最初の広島ワールドピースフラッグセレモニーを開催いたします。皆様方のこれまでの温かいご支援のお陰で、今年もまたここ広島原爆ドームの前でフラッグセレモニーを開催できますことを心から感謝申し上げます。

74年前の今日、一発の原爆により、多くの人々の日常の生活が一瞬にして消滅し、廃墟と化しました。広島には75年間は草木も生えないと言われたものです。その深い悲しみの中から立ち上がった多くの人々の無数の営みと、このような悲劇を二度と繰り返してはならないという平和を願う強い思いによって、また、日本各地、世界各地からの多くの支援のお陰で、広島は水と緑に囲まれた美しい平和な街に変身することができました。

しかしながら、いまだ世界各地では、テロや空爆の恐怖におびえ、不安におののきながら暮らしていかざるを得ない人々が多数います。それらの方々の平和を願い、すべての国々が一日も早く安心して、笑顔で暮らせる毎日になるよう、これから皆さんと一緒に祈ってまいりましょう。

私たちは、世界194か国の国旗を一つ一つ掲げながら、言語、宗教、主義、主張の違いを超えて、「世界人類が平和でありますように」という思いだけで、その国の平和を唯ひたすら祈るというフラッグセレモニーを、毎年8月6日、原爆ドーム前で行なってきました。今年で27回目になります。

昨年のフラッグセレモニーでは、アメリカのまだ幼い少年が、3回も旗を持って参加してくれました。最後の3回目では、自国アメリカの旗を掲げて祈ってくれました。とても感激して、お母さんと泣いていたそうです。私たちは、フラッグセレモニーの持つ力を逆にこの少年から教えられたように思いました。

「令和」の時代。それは美しい平和な時代であってほしいという願いであるとともに、平和な世界を早く創れという天からの命令の「令」の字と思います。お前たちは、あれから74年も経つのに未だ平和な世界を創っていないのか、我々の犠牲を無駄にするな、早く創れという広島・長崎の被ばく者の方々の強い願いでもあると思います。

本日は、日本のみならず、世界各地で多くの友人もインターネット中継を通してこのセレモニーに参加して下さっています。すべての皆様と心をつにし、世界平和の祈りを広島から世界に発信してまいりましょう。

令和の風を広島から世界に。

令和元年8月6日

広島ワールドピースフラッグセレモニー

代表 富永 昌平